

地理学から「夜」を考える

—都市社会と自然環境における夜—

池田真利子

筑波大学芸術系

2018年11月23日にパリ・OECDカンファレンスセンターで開催された博覧会国際事務局総会において、国際博覧会の大阪開催（2025年）が正式に決定した。次年度へと開催が迫る東京五輪に加えて、大阪がメガイベント誘致に成功したことで、大都市圏はさらに消費における中心性を高めていくであろうと推察される。また、メガイベント開催後の施設遊休化防止のために、観光産業を含む大都市への継続的投資が求められており、IR推進法により整備が進められる統合型リゾート建設には、都市行政によるこうした期待も見え隠れする。

こうしたなかで、「夜」が注目を集める（池田，2017）。日本では2010年代半ば以降、すなわち五輪開催が有望視され、さらにインバウンド観光を含む「観光立国」への経済的期待が高まり始めた時期に、夜の利活用を考える取り組みが民間レベルで高まっていった（図1）。契機の一つとなったのは、クラブの営業に係る規制（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行令）の緩和であったが、奇しくもカジノの解禁を可能にしたIR推進法と同じ2016年に公布されている。この時期には「夜間経済（Night-time Economy）」という言葉がメディアに頻繁に露出するようになり、その下位に位置付けられる「ナイトライフ観光（Night-life Tourism）」は注目を集めることになった。これら夜の観光消費に社会的注目が集まり始めてから約5年が経過し、東京・大阪の大都

市圏だけでなく地方都市において、「夜」が再編を迎えつつある。

他方で、「夜」をテーマに扱った学術的研究や特集号は少ないのが現状であり、2014年にはUrban Studiesの特集号で「都市の夜の地理（Geographies of Urban Night）」の学術的知見が集約されたが（van Liempt et al. 2014）、国内ではこうした実験的試みは未だ行われていないように思える。また、地理学の得意とする時間－空間の視点を基礎に置きつつも、都市－自然および社会－環境それぞれの枠組みのなかで夜を学術的に考えることは、科学－人文学の双方に根差す地理学



図1 「夜」を考える都市型イベント

日本の「夜」を巡る再編は2014年には始まっていた。写真はGoethe Instituteで開催された都市型イベントの一幕を写したものである。グローバル都市がいかに「夜」の社会－経済活動を取り込んでいるかが、都市観光キャンペーンと並行して紹介されていた。風営法改正に関する討論も壇上では行われた。

（2014年3月池田撮影）

ならではの視点であると言える。

そこで本特集号では、地理学において「夜」を再考するため、都市社会 [2編] と自然環境 [2編]、そしてその双方を扱う論文 [1編] の全5編を集めた。第1論文 [池田ほか] では特集号全体の流れを踏まえ、「景観」という地理学の鍵概念の検討を軸に、科学-人文学、環境-社会、自然-都市の夜を捉える。第2論文 [杉本ほか] は、日本の盛り場空間である新宿・銀座・渋谷の飲食店の時空間の実態を、「ぐるなび」のPOIデータ（地物データ）を用いて定量的に明らかにする。さらに第3論文 [金ほか] は、第2論文の研究対象地域として選定されている新宿北側に隣接する大久保コリアタウンが、昼と夜とで異なる領域性を有することを示唆する。続く第4論文 [矢ヶ崎・上原] は、人間の好奇心を駆り立てる心霊スポットやゴーストツアーに焦点を当て、人間が恐怖を消費する場所の特徴をテキストマイニング

やコレスポネン分析により明らかにする。また、第5論文 [卯田・磯野] は、石垣島の観光資源である星空が消費される地域の様相を描き出している。

いずれの論文も、「夜」に顕著な都市・自然の観光資源（夜景・ライトアップ・プロジェクションマッピング・飲食・エスニック料理と韓国人のカラオケバー・ゴーストツーリズム・星空観光）を題材として取り上げているのみならず、それらを学術的枠組みから試論的に論じている。

文 献

- 池田真利子 (2017) : 世界におけるナイトライフ研究の動向と日本における研究の発展可能性. 地理空間, **10**, 67-84.
- 池田真利子 (2019) : 『アーバンスタディーズ』より「序論：都市の夜の地理」. 地理空間, **11**, 145-164.
- van Liempt, I., van Aalst, I. and Schwanen, T. (2014): Introduction: Geographies of the urban night. *Urban Studies*, **52**, 407-421.

Exploratory Approach towards ‘Night’ of Urban Society and Natural Environment

IKEDA Mariko

Faculty of Art and Design, University of Tsukuba